

愛しく咲くものは

愛しく咲くものは

散るの川約束されてゐる。

愛しく咲くものは

いずれ全て無くなってしまう。

愛しく咲くものは

いずれは終わりを迎える。

愛しく咲くものは

枯れて醜くなってしまう。

愛しく咲くものは

其れでも尚美しい。

愛しく咲くものは

其れでもまだ美しい。

いもうとはかいじ^やうだ。

ゆ田小学校二年

田^じち はるひと

いもうとはかいじ^やうだ

なんでもかじる

けしゴムもえんぴつも

ぼくのきょうか書、ずかんも

トリケラトプスみたいにハイハイして

今はティラノサウルスになって

二本足で立っている

大づえでなくと家がバラバラになりそうだ

わ、ばいをのむとパワーまんてん

ムッキムキ

いもうとはさいきょうだ

それでもぼくはいもうとが大すぎた

みなさん こんにちは

いそいそとがんばっています。いそいそと

いそいそとがんばっています。いそいそと

いそいそとがんばっています。いそいそと

いそいそと

いそいそとがんばっています。いそいそと

いそいそと

いそいそとがんばっています。いそいそと

いそいそと

いそいそと

いそいそと

奏

山口大学教育学部附属山口中学校

一年 黒木 美優

第一章 音楽は世界のかけ橋

世界を旅する

文化を感じる

時代を超える

音楽は希望の船

私を乗せて運んでくれ

次の曲へと

第二章 聴覚へ訴えるメッセージ

音で伝わる

リズムで伝わる

強弱で伝わる

休符で伝わる

心に響く

特別な力

私の体の一部になってくれ

第三章 和音

心に届く 和みの音

重なりあって響く 新たな音色

共鳴を生む

感動を生む

時には 不協和音も

世界中の

幸せのハーモニー

第四章 日常の音

包丁で野菜を切る音

洗濯機を回す音

水をまく音

コンコン ドンドン ザーザー

存在を感じる安心感

音は動作に花を咲かせる

感じよう

日常の音を

山口市立秋穂中学校 一年

喧嘩

平田 旬

友達と喧嘩した
自分は悪くない
心が落ち着かない
同じ輪にいる
でも遠い宇宙にいるみたいだ
なんでここに……
僕達の間になぜこんなでかい壁があるのか
壊したい
一人では壊せない
分かってる
たっ た 一人でたたき始める
もう無理だ
あきらめ
その場に倒れこむ
その時
反対側から壁をたたく音
僕ははね起きる
そして
深呼吸をして
たたきだす
ひたすら

山口市立秋穂中学校

一年

たたいてたたいてたたいて……

反対からも

トントントントントント……

穴が開いた

その穴から夕日が差しこんだ

原っぱに座り

黙っていっしょに夕日を見る

僕達に言葉はもう必要ない

だって

お互いに考えていることが

手にとるように分かるから

山口市立秋穂中学校 一年

僕は歌う

かたが 門田 青空

太陽のにおい

風をきりながら 自転車をこぐ

僕は歌う、楽しくて

雨のにおい

アスファルトのにおい

降りはじめた雨を見ながら

僕は歌う 気持ち晴れるように

ピリピリとした空気

その場の空気にたえきれず

僕は歌う 悲れるために

涙がこぼれ落ちそうとき

悔しくて いたたまれなく理不尽なとき

誰にも分かってもらえなくて苦しいとき

僕は歌う 誰かに聞いてもらいたくて

僕は歌う

僕は歌う

僕が歌う理由

それは、。

都会

山口市立大殿中学校 三年 喜多 諒典

森林の中

夏を喜ぶせみは うるさいほどさけふ

田は

暑さがいだて

頭かう湯気出して太陽に怒っている

畑の中も 川の中も

生き物は

跳ねて、

走って、

運動会をする

ああ なんてさわかしんだ

静けさを求めても この秘境の中には

小さな都会があるだけ

風
よ

鳥
よ

静
け
さ
は
ど
こ
に
あ
る
？

勇
気
の
か
け
ら

湯田小学校

六年

里木

未羽

は
ず
か
し
い
こ
と

自信がないこと

ヒ
フ
コ
の
よ
う
に

月
の
中

で
た
い
け
と

言いたいたけと

勇氣が出ない

7
ま
ち
が
っ
た
っ
て
い
い
と

先生の言葉

ふる
る
え
る
手
で

思いきって卵をわける

ま
っ
し
い
光
に
目
が
く
ら
み

また卵の中うずくまる

落ちた卵のかけり

見
つ
め
て
思
う

次の一歩

ふみ出そう

勇気の
かけら
増やし
ていこ
う

品	品	川		大
---	---	---	--	---

夏の夜の川辺の草むら

消えかけの外灯のよう

千	力	千	力	と	光	る
---	---	---	---	---	---	---

堂

堂

𧈧

堂

コンパス

山口市立白石小学校

三年 森おか けん

私はまわる

くま　くま

まわる

紙の上を

くま　くま

くま　くま

くま　くま

くま　くま

まわで

紙の上のバレーイ

十星十色

湯田小学校

五年

森川

優羽

星がキラキラ光ってる

ずっとながめていたいぐらい

キラキラ・キラキラ光ってる

須佐の夜空一面に広がる星

ケーキの上のアラザンみたいに

お皿に広げたこんぺいとうみたいに

そしてわたしを守ってくれるみたいに

温かく光ってる

どの星がどの星座か聞かれても

分からないぐらいたくさんで

色も形も光り方もそれぞれちがう

似ているものもある

わたしの周りにもたくさん星がある

どの星も

ずっとながめると光ってる

わたしはマイペースでゆっくりな星
これからものほほんと
光り続けていきたいな